

表 3 発生頻度

回数/月	回答数 (%)
0	535 (30.0)
1~5	639 (35.8)
6~10	221 (12.4)
11~20	81 (4.5)
21~50	70 (3.9)
51~	20 (1.1)
不明	68 (3.8)
回答なし	150 (8.4)

表 4 看護師の場面別処置前の手洗いができなかった経験 (A 施設)

場面	経験有りの数 (%)
ガーゼ交換の前	131 (75.3)
点滴セットの前	104 (59.8)
酒精綿を取り出す前	139 (79.9)
採血の前	114 (65.5)
口腔ケアの前	135 (77.6)
オムツ交換の前	160 (92.0)
吸引の前	162 (93.1)
側管からの点滴の前	120 (69.0)
排液処理の前	152 (87.4)
排尿採取の前	154 (88.5)
平均	137 (78.8)

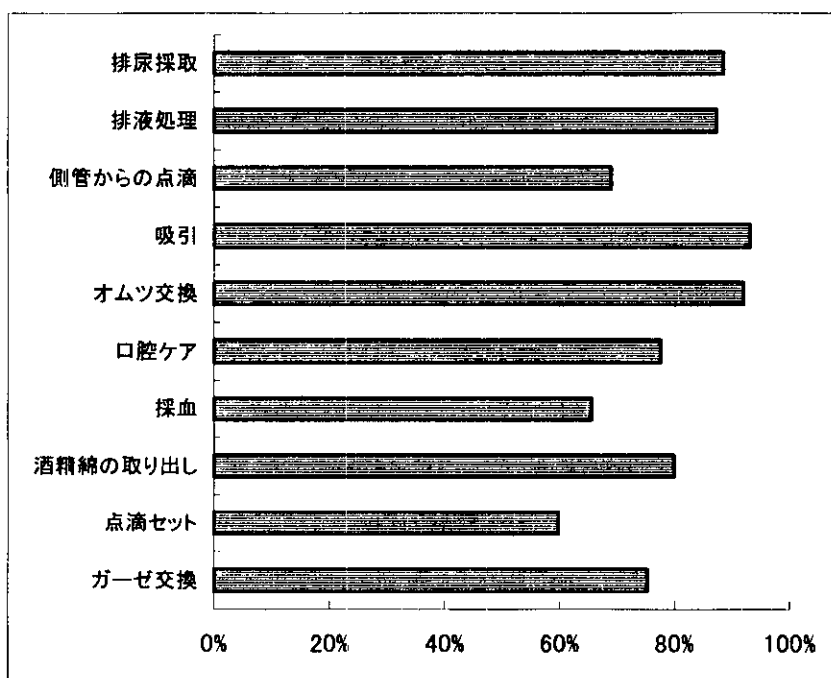


図 1 看護師の場面別処置前の手洗いができなかった経験率 (A 施設)

表 5 発生場所

発生場所	回答数 (%)
病室(集中治療室を除く)	555 (31.1)
病室外(廊下、ナースステーション等)	47 (2.6)
救急部門	15 (0.8)
集中治療部(術後回復室を含む)	30 (1.7)
手術部	6 (1.7)
外来診察室(処置室)	80 (4.5)
特殊検査処置室(放射線・内視鏡・筋電図等の検査室)	30 (1.7)
中央検査部、中央採血処置室	6 (0.3)
その他	27 (1.5)

表 6 発生時間帯

時間帯	回答数 (%)
日勤	292 (16.4)
夜勤	206 (11.5)
昼夜時間を問わず	178 (10.0)
準夜	49 (2.7)
深夜	34 (1.9)
午前中~昼頃	26 (1.5)
深夜(6~8時)	17 (1.0)
夕方	16 (0.9)
休憩時間中	6 (0.3)
起床時、就寝前	3 (0.2)
食事時間	3 (0.2)
就寝時間	3 (0.2)
午後	3 (0.2)
申し送り時間	2 (0.1)

表 7 発生時の業務内容

内容	回答数 (%)
ケア・療法	154 (8.6)
処置	123 (6.9)
オムツ交換	84 (4.7)
食事介助・配下膳・授乳・調理	64 (3.6)
汚物(血液・嘔吐・排泄)処理	63 (3.5)
診察・検温	61 (3.4)
清拭(全身・口腔・陰部)	50 (2.8)
点滴・注射	47 (2.6)
吸引	40 (2.2)
排泄介助	33 (1.8)
検査	32 (1.8)
ガーゼ交換	23 (1.3)
採血	21 (1.2)
移動介助	19 (1.1)
救急対応	14 (0.8)
入退室	14 (0.8)
清掃	7 (0.4)
調剤	6 (0.3)

シーツ交換	3 (0.2)
その他	10 (0.6)

表 8 手洗いのできない要因のカテゴリー

1.手洗いの必要性を認識しない	95
<p>手を洗うのは面倒である 時間の無駄(手を洗う時間がもったいない) 見た目で汚染がなければよい 同じ処置なら人移って続けても良い 同じ人なら場所が変わっても続けて良い 手洗い意識に個人差があるから自分だけやっても仕方がない 汚染していない側の手を使えば良い 感染症患者の時だけ手洗いが必要と認識している 部屋を出るときに手を洗えばよい 手洗いより処置が優先する 手洗いで患者を待たせてはいけない 手洗いより電話やナースコールが優先する 手袋を交換すればよい オムツ交換で手洗いは必要ない 手洗いを意識したことがない 患者に触れなければ良い 処置毎になどやってられない 外来診察では行わない</p>	
2.手洗いを忘れる	99
<p>夜勤で多忙な時間帯に意識が薄れると忘れる 外来に患者が立てこむとつい忘れる 後で手洗いをしていなかったことに気付くことがある 手袋を外した後の手洗いを忘れる 慌てたりあせったりすると忘れる 手袋をしていると汚れた感覚が薄れるのでつい忘れる 感染症でないと気が緩む ちょっとした処置の後はずい忘れる ナースコールがあるとつい忘れる 他に気を取られることがあると忘れる 忙しいとつい忘れる 同室者だとつい忘れる 何となく、うっかり よほど強く意識していないと忘れる</p>	
3.多忙である	603
<p>夜勤で人が少ないがナースコールが多いときはできない 夜勤の受け持ち患者数が多く時間に追われるとできない 緊急の依頼など検査が続く時は前の患者の血液が付着しても十分に洗浄できない 他のスタッフが休憩時間中に患者からの用件が重なりせかされる 医師からの指示が立て続けになるときは手を洗う間がない 複数のナースコールが鳴り患者からの依頼が殺到する 同室の患者に呼ばれ待てない用件であった 手洗い場に急いでいるときに患者に呼び止められたる 手を洗おうとしている時に他のスタッフから用事を依頼されせかされる 自分がトイレからでたところで隣のトイレの患者から助けを求められた 多忙時は手袋で代用している</p>	
4.緊急な場面である	147
<p>嘔吐の介助中に隣の患者が転倒しそうになった</p>	

<p>吸引中に隣の患者の不穏行動があった 処置中に同室の患者がベッドから落ちそうになった 他の患者が点滴のルートやチューブを引っ張っていた 他の患者がイレウス管を抜こうとしていたので急いで制した 手洗いに向かっている時に転倒・転落しそうな患者を発見した 呼吸停止の患者を発見し手洗いせずに入室した 急産で娩出間際であった NICU・ICU での急変処置時 排尿介助中に停電で人工透析が止まった 便尿器介助中に隣の患者が急変し心臓マッサージを行った 処置中に機器アラームが鳴ったので手袋を外すだけで対応した 血液等が付着しても安全確保のため傍を離れられず処置を続けた</p>	114
<p>5.同じ業務を複数の対象に続けて行う</p> <p>複数の患者のオムツ交換を一度に行う 排泄物処理を定時に一斉に行う 定時の尿測定のために留置カテーテル採尿バッグより採尿して回る ドレナージ排液中患者の排液採取を定時に回る 処置回診介助で医師のペースが速い</p>	13
<p>6.手荒れがある</p> <p>洗剤により手が荒れる アルコール製剤により手が荒れる 皮膚炎や傷があるとアルコールがしみて痛い 手袋のパウダーで手が荒れるがノンパウダーの手袋がない 手荒れ対策に手袋を代用している 洗剤、アルコール、手袋の全てで手が荒れるため、素手で処置し時々しか手を洗えない 手荒れ対策で手袋対応しているが手袋で覆えない部位が汚染する</p>	23
<p>7.業務現場の近くに手洗い設備がない</p> <p>ウェルパスがベッドサイドにない 外来診察の机の上にウェルパスがない 手洗い場が遠い オープンスペース(食堂やPT室など)に設備がない 手洗い場の整備された処置をするための部屋がない</p>	

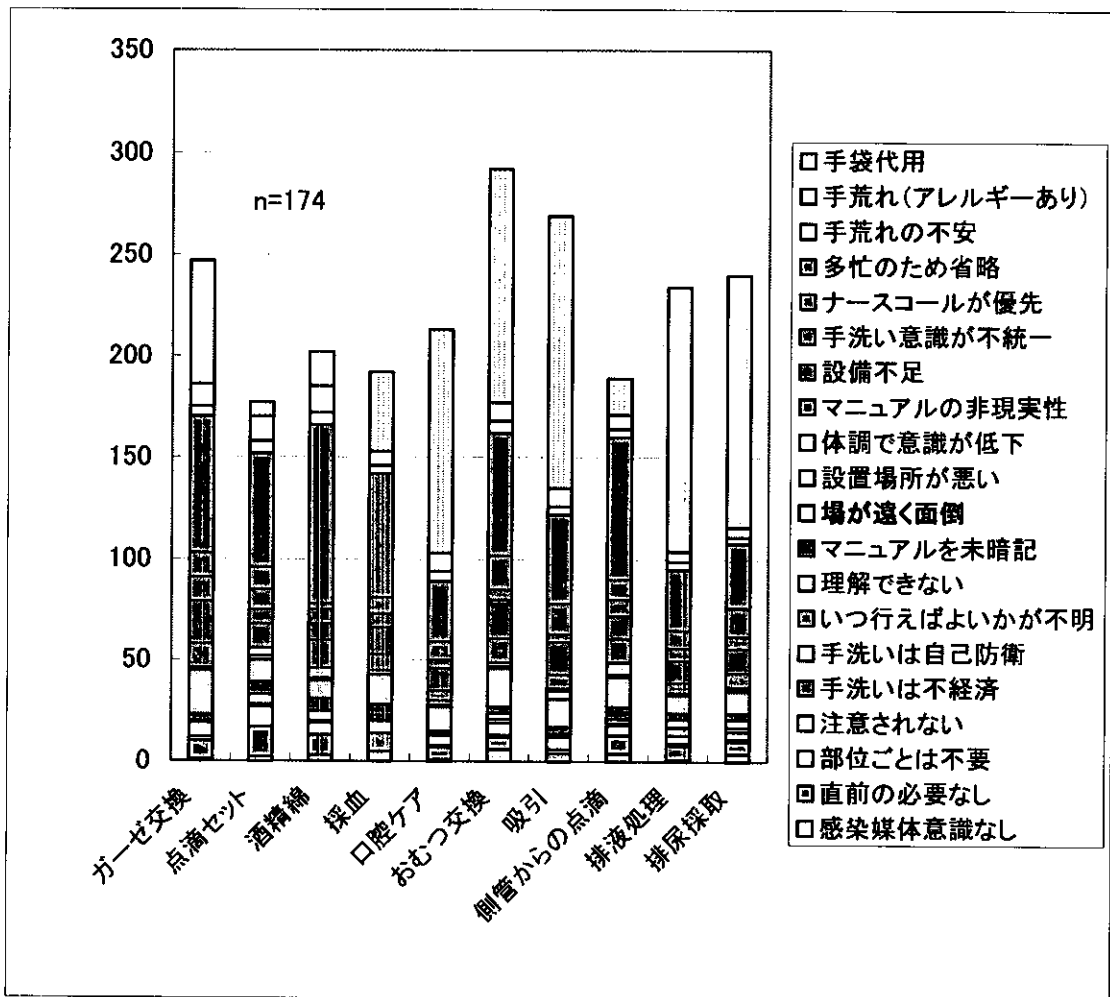


図2 場面別処置前の手洗いができない理由(A施設)

表3 手洗いのできない理由の因子(A施設)

理由		10場面の 平均値 (%)
知識不足	直前の必要なし	8.1 (4.7)
	感染媒体意識なし	2.7 (1.6)
	手洗いは自己防衛	1.1 (0.6)
	部位ごとは不要	0.8 (0.5)
	手洗いは不経済	0.2 (0.1)
意識低下	体調で意識が低下	2.5 (1.4)
多忙	多忙のため省略	54.0 (31.0)
ナースコール	ナースコールが優先	11 (6.3)
手袋	手袋代用	76 (43.7)
手荒れ	手荒れ(アレルギーあり)	8.7 (5.0)
	手荒れの不安	4.7 (2.7)
設備不足	場が遠く面倒	14 (8.0)
	設備不足	13 (7.5)
	設置場所が悪い	1.1 (0.6)
管理不足	マニュアルの非現実性	9.4 (5.4)
	手洗い意識が不統一	6.9 (4.0)
	注意されない	5.9 (3.4)
	マニュアルを未暗記	3.9 (2.2)
	手洗い場面が理解できない	2.5 (1.4)
	いつ行えばよいか不明	0.3 (0.2)